

12. 関係団体等

厚生労働省の数理・デジタル職員は、厚生労働省や他の中央省庁などで勤務する以外にも、数理的な素養やそれまでの業務を通して習得した知識やデジタルの知見等を活かせる様々な関係団体や研究機関*でも活躍しています。

※ 数理・デジタル職員の活躍している関係団体や研究機関などの例

- ・ 全国健康保険協会（協会けんぽ）：主に中小企業で働く従業員とその家族の健康保険を運営する組織です
- ・ 日本年金機構：我が国の公的年金制度の運営を国から任されている組織です
- ・ 年金シニアプラン総合研究機構：年金制度と年金資金運用および年金生活に関する専門研究機関です
- ・ 労働政策研究・研修機構：内外の労働に関する事情や労働政策について調査や研究等を行う機関です

COLUMN

社会保険診療報酬支払基金で活躍する数理職員

診療報酬明細書（レセプト）の審査支払業務

社会保険診療報酬支払基金（支払基金）は、健康保険組合や共済組合などの保険者と病院や診療所などの医療機関等とを結ぶ全国規模の審査機関として医療保険制度の円滑な運営に重要な役割を担っています。レセプトの審査事務におい

ては、一カ月当たり9,000万件を越えるレセプトが医療機関等から請求され、その請求内容について専門的な職能を持つ医師、歯科医師及び薬剤師である審査委員が医学的見地から確認して審査の決定を行っています。

AIの活用と今後

支払基金ではICTの最大限の活用による審査事務の効率化・高度化を推進しており、令和3年9月から実装したAIによるレセプト振分機能の設計等に数理職員が携わりました。

レセプト振分機能により、人による審査を必要とするレセプトと必要としないレセプトへ振分け、今後、レセプト全体の9割程度をコンピュータチェックで完結することを目指しているところです。レセプトを振分ける際に、類似レセプトのグループを高速に作成することができるminhashと決定木による分類モデルであるxgboostという2つのAIエンジンを活用して

います。こうしたAIの分析や結果説明をする際にはデジタル（情報関係）のスキルが求められます。

支払基金では今後も効率性を実現するための検討・開発を進めることが求められ、AIによる振分機能の活用が進むことが見込まれます。また、法改正により支払基金におけるデータ分析等に関する業務が追加されレセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）に関連する業務受託が進められているところであり、デジタルの活用は今後も進むことが見込まれ、数理職員の活躍の場が拡がることが期待されます。

AIによるレセプト振分機能（xgboostによる判定の仕組み）

分類モデル作成の方法

- ・ 条件分岐（決定木分析）
過去レセプトの情報（傷病名、診療行為、医薬品など）と審査結果（査定・返戻の有無）を木構造を用いて査定となる条件の分岐を学習
- ・ 再学習
決定木における誤り（査定・返戻となる条件）を修正しながら再学習し複数の決定木を作成

分類モデル作成イメージ

